

都市再生整備計画(第^{だい}2^{かい}回^{へん}変更^{こう})

池田地区^{いけだちく}

徳島県^{とくしま} 三好市(旧池田町)^{みよしし きゅういけだちょう}

平成19年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	徳島県	市町村名	三好市(旧池田町)	地区名	池田	面積	37.5 ha
計画期間	平成 16年度 ~ 平成 18年度	交付期間	平成 16年度 ~ 平成 18年度				

目標							
大目標: 徳島県西部の観光・交流・生活拠点の創造							
目標1	観光・交流・生活拠点機能を高め地区のにぎわいを再生する。						
目標2	周辺観光地を訪れた観光客を地区内に誘導し、地域振興を図る。						
目標3	交通拠点と交流拠点のアクセスを向上させ、交流人口増を図る。						

目標設定の根拠							
まちづくりの経緯及び現況							
<p>・本市の池田地区は、四国のほぼ中心という立地的特性等により古くから交通の要衝として、徳島県西部における産業・経済・教育文化の中心的役割を担ってきた地域である。産業では明治以来「たばこのまち」として栄えてきたが、平成15年3月末に地区中心部にあるJT池田工場が解散し、現在では建物解体も終了し、広大な敷地(4.5ha)が更地になっている。観光では、周辺町村に大歩危峡、かずら橋、剣山など有名な観光地があり、その起終着点として栄えてきたが、モータリゼーションの進行と併せて、平成12年3月に徳島自動車道が全線開通し、隣接の愛媛県四国中央市が横断自動車道とのクロスポイントとなったこと等、交通の要衝としての存在感が薄らいでいる。</p> <p>・JT池田工場の解散・撤退は旧池田町総合計画策定時(平成13年)には予想もしないことであったため、撤退確定を期に市内の横断的組織で跡地利用を含めた地域再生を検討してきた。厳しい財政事情から、その大部分を民間活力にゆだねることになるが、行政の責任において、地域再生へ向けた条件整備と環境整備を図っていききたい。本市にとってJT池田工場の解散・撤退は地域産業・経済面からも計り知れないマイナス要因だが、地域再生への絶好のチャンスとするプラス思考により、豊富な自然資源、観光資源に恵まれた徳島県西部の観光・交流・生活拠点として再生をめざす。</p>							
課題							
<p>・徳島県西部には大歩危峡、かずら橋、剣山など豊富な観光資源が点在しているが、観光地のネットワーク拠点である地区の観光拠点整備が必要である。</p> <p>・上記観光地を訪れた観光客は日帰り・通過型が多く、新たに地区内に観光客を誘導することにより、滞在時間の延長を図ることが必要である。</p> <p>・町村合併により、新市の中心地区となることから生活拠点としての整備が必要である。</p> <p>・現在使用中の阿波池田駅前バス乗り場は、市道栄町線(片側1車線)の路上をバス乗り場として使用しており、交通の妨げとJR阿波池田駅前の混雑の一因となっている。また、観光・路線バスのいずれも駅前のアーケード街を通過し、歩行者の通行の妨げとなっており、その解消が必要である。</p> <p>・市道栄町線は旧池田町のメインストリートでありながら歩道がなく、交通安全の面で問題がある。また阿波踊り期間中は踊りのメイン会場になるが、観光客を魅了できる環境が整っておらず、早急に整備が必要である。</p>							
将来ビジョン(中長期)							
<p>・旧池田町総合計画(平成13年策定)において、「豊富な自然資源、観光資源に恵まれた本町は、高速交通網の整備進展に伴い、広域的な観光の拠点としての役割が以前にも増して求められています。」との課題を定めている。</p> <p>・計画の目標が達せられたことにより、地区が徳島県西部の観光・交流・生活拠点として確固たる地位を築き、徳島県西部が四国有数の観光地域として発展することを目指す。</p> <p>・平成18年3月に池田町、三野町、山城町、井川町、西祖谷山村、東祖谷山村が合併し、三好市が誕生したが、合併後も中核的存在である計画地域は新市の顔・玄関口、発展の牽引役としての役割が期待されている。</p>							

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
観光入込客数	人	旧池田町全体の観光入込客数	観光拠点のまちづくりの実現を表す指標として、観光入込客数を指標とした。	801,800人	平成15年度	900,000人 平成18年度	
阿波踊り観光客数	人	地区内で実施されるイベントの中で最大規模である阿波踊りの観光客数	観光拠点のまちづくりの実現を表す指標として、阿波踊り観光客数を指標とした。	75,000人	平成15年度	100,000人 平成18年度	
総合体育館利用者数	人	地区内の最大イベント会場である総合体育館の利用者数	交流拠点のまちづくりの実現を表す指標として、総合体育館利用者数を指標とした。	105,100人 ※(79,100人)	平成15年度	100,000人 平成18年度	

※平成12~14年度の平均値(15年度特殊事情あり)

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(観光・交流・生活拠点の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、高速バス利用の観光客が周辺観光地を周遊する際の拠点として、また地元・周辺住民の路線バスの発着場としてバスターミナルの整備を行う。 ・旧池田町のメインストリートとして魅力とゆとりのある空間を形成し、尚かつ阿波踊り期間中の栈敷席の設置スペースを確保するため、市道栄町線の拡幅と隣接した公園整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路事業（基幹事業／栄町線歩道、ターミナル整備） ・公園事業（基幹事業／栄町公園整備） ・青空市協業組合の設立（関連事業） ・産地直販施設の整備（関連事業）
<p>整備方針2(観光客の誘導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの顔・玄関口であり、人・物の交流拠点であるJR阿波池田駅前の公衆便所が汲み取り式・男女共用であるので、改築を行う。 ・地区内の観光地間を魅力ある新たな周遊コースとして整備を行う。（文化の遊歩道整備） <例> JR阿波池田駅・バスターミナル→武家門→うだつ通→大西城跡（諏訪公園）→池田高校 	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設（基幹事業／JR阿波池田駅前公衆便所改築） ・地域生活基盤施設（基幹事業／JR阿波池田駅前観光情報板の設置） ・高質空間形成施設（基幹事業／御幸線植栽・緑化施設、四阿、ベンチ） ・高質空間形成施設（基幹事業／本町うだつ通石畳舗装、案内板設置） ・環境美化推進事業（関連事業／商店街他）
<p>整備方針3(交通・交流拠点間のアクセスの向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや文化・会議の拠点となっている「三好市池田総合体育館」から中心市街地や阿波池田駅間の歩行者のアクセスと安全確保を図るため整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業（提案事業／栄町線側溝整備事業）
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域再生計画の活用 都市再生整備計画の策定と同時に、同地域で同目標を掲げ地域再生計画を策定した。古くから地域と共に歩んできたJT池田工場の解散・撤退の年は、改革の年であり、今年を再生元年と位置づけ、目標到達を目指す。 ○青空市協業組合の設立及び産地直販施設の整備 以前から、旧池田町民より青空市とか土・日曜市開設に向けた強い要望があったが、地区内には恒常的に青空市等を開設できる適当な場所はなく、現在は生活改善グループによる役場前駐車場での小規模な日曜市が開催されている程度である。栄町道路整備或いはバスターミナルを含めた栄町公園の整備を契機として、農林家や農林業生産組合、物産協会、女性連絡協議会、商工会・商店街等で組織する「池田青空市協業組合（仮称）」を設立し、産地直販施設を整備することにより、ここを拠点として日曜市或いはフリーマーケット等を定期的に開設しながら、交流人口の拡大と外部経済の導入を促進していく。 ○環境美化推進事業 現在、商店街、地区住民団体或いは女性連絡協議会等を中心とした花作り活動やアドプト活動への取り組みが活発化しつつあり、官民協働による環境美化活動やまちづくり意識が高揚していることから、本事業による「文化の遊歩道」整備と合わせて「花いっぱい運動」を再構築しながら、都市環境の美化に努める。 	

いけだちく みよしし
池田地区(徳島県三好市)整備方針概要図

目標	徳島県西部の観光・交流・生活拠点の創造	代表的な指標	観光入込客数 (人)	801,800	(15年度) →	900,000	(18年度)
			阿波踊り観光客数 (人)	75,000	(15年度) →	100,000	(18年度)
			総合体育館利用客数 (人)	(79,100)	(15年度) →	100,000	(18年度)

